

やけのしょうがっこうこうちょうしつ 焼野小学校校長室だより 発行人 宮脇敬市 平成27年9月28日

輝け！ 焼野っこ いいね

かがやけのっこ

やむく けんこうて びのびと 聴く

第5号

## 子どもの伸ばす言葉かけ！

長い夏休みも終わり2学期が始まりました。涼しくなって何をするにもよい季節です。生活のリズムを整えて、学習や運動にどんどんチャレンジしてほしいです。

2学期の大きな行事である運動会には、どの学年も団体演技があります。先生達もその練習のために夏から準備を進めてきました。全員が力をあわせて演技するためには、身体だけでなく心の成長もしっかり導く必要があります。

そのための言葉かけがとても大切で、子どもを伸ばすためには、子ども自身が考えるように促すことが必要です。指示された言葉で、受身の行動になるか、主体的な行動となるかが大きな分かれ目です。言われたことだけ何も考えずにするのと、どうしたらうまくできるかを考え工夫するのは大きな差が現れてきます。

否定的な言葉を使うことを避け、結果をほめるよりも、そのプロセスをしっかりほめて励ましてあげることが大切なんですね。

## 「勝負脳」で成功する！

ある大学教授によると、オリンピックなどの世界大会で優勝した選手への調査から、成功する人は「勝負脳」ができていることがわかったそうです。その共通した特徴は、

- (1) 目標をしっかり決めている。
- (2) 練習でも全力をつくし、素直である。
- (3) 途中で勝ったとは思わない。



くみだいそう れんしゅう こうがくねん  
▲組体操の練習をする高学年

- (4) 否定的な考え方や発言は絶対しない。
- (5) 人の悪口を言わない。人に親切。

ということがあげられるそうです。

人間の脳はストレスがかかると疲労がなかなか取れないので活性化しなくなります。よいリズムをつくり気持ちのよい状態を作り出すことが大切とのことです。そして、心をプラスのイメージにすることで、よいことがどんどん引き寄せられて来るようになるのです。

運動会にむけて、高学年が組体操の練習をしています。一人技、二人技、三人技・・・とむずかしくなっていますが、最初から「もう無理」「疲れた」と声にだすと、できることも成功しません。練習では最初に「めあて」の確認、最後にできたことできなかったことの反省を全員で必ず行っています。組体操の練習では「声」を出して自分や周りの人と確認しながら演技することがとても大切なんです。

低学年と中学年のダンスを中心とした演技でも要所では声をだして練習を積み重ねています。そんな子ども達の一生懸命な姿を運動会当日に全身で感じたいと思っています。